



ひら おか ます お
平 岡 益 生

こうめいとうぎいんだん
公明党議員団

防災・安全交付金の活用は

問 国では、25年度予算を24年度の補正予算と一体的な15ヶ月予算と位置づけ、日本経済の再生への切れ目のない対策を実行する一方、東日本大震災からの復興・復旧、防災・減災対策の重点化などが図られている。

橋、道路等インフラの総点検と維持・補修などの老朽化対策や耐震化等の取り組みを財政的に支援する「防災・安全交付金」をどう活用するのか。

答 「防災・安全交付金」は、地域の防災・安全を実現する整備計画に基づく地方主体の取り組みについて基幹的な社会資本整備のほか、関連する社会資本整備や効果促進事業などを総合的・一体的に支援するために創設されたものである。

「防災・安全交付金」等の新たな交付金の創設に対しては、国の動向に対応漏れがないよう早い段階から各部局で対応しており、緊急経済対策が閣議決定された段階でも、再度十分に情報収集を行っている。

津市における「防災・安全交付金」の活用については、道路の舗装、橋りょう、下水道の予防的かつ計画的な維持管理の強化、市営住宅の長寿命化などへの活用について、国、県と協議を行っている。

●その他の質疑・質問●

○環境行政について

- ・PM2.5の住民への周知方法は
- ・温室効果ガスの削減は

○地域防災対策について

- ・業務継続計画の策定を求める
- ・災害時要援護者条例の策定は
- ・個別支援計画はどうするのか

○福祉行政について

- ・福祉何でも相談室の設置を
- ・骨髄ドナー助成制度の創設を求める など



▲国の交付金を活用し、橋梁等インフラの老朽化対策推進を



いわ わき けい いち
岩 脇 圭 一

いっ しん かい
一 津 会

津の子ネット報告書について

問 津市子どもの権利条例づくり推進市民委員会が21,053人の津市の小中学生、高校生の子どもの声を報告書としてとりまとめたが、今を生きる津市の子どものたちの状況を示した貴重な資料であり、教育委員会・健康福祉部としてどのように捉えたのか。

そして、今後の施策にどのように活かしていくのか。

答 報告書によると、アンケートは、安心して生きられるか、自己肯定感、人とのかかわり、社会参加の切り口から設問が構成されており、その結果から、多くの子どもたちが自己を肯定的に見ている一方、自分に自信を持たず、人とのかかわりを苦手とし、人と意見の対立を避けようとする子どもが少なくないことがわかってきた。

また、自己肯定感の低い子どもは自分に自信が持てず、逆に高い子どもは自分が大切にされていると感じ、自分の意見が言えると答える傾向が出ている。

今後は、子どもの自己肯定感を高め、一人一人の自己実現を目指す教育を進めるとともに、家庭や地域と連携して、子どもたちの育ちを支援する施策に活かしていきたい。

●その他の質疑・質問●

○景観条例の制定について

○まん中こども館の運営、企画・プログラムについて

○オープンディスカッションなど対話の場をどのように改善していくのか

○行財政改革後期実施計画から

- ・事務事業評価の充実は
- ・業務改善提案制度の取り組み

○本庁舎、公共施設の適切な維持管理・更新計画を など



▲県庁講堂で行われた津の子ネットの報告会の様子